

日本マイクロサージャリー学会関連 (整形外科・形成外科) ~2009			他領域関連	海外		
(東日本) ~1975		(西日本) ~1975				
	東京警察病院・東京大 (形成外科)	慶應大学 (整形外科, 形成外科)	奈良県立医科大学 整形外科	京都大, 名大, 大市大, 川崎医大, 広島大など		
1959			玉井 進 犬の切断肢再接着実験 (1959年開始, 1964 英文発表)			
1960			玉井 進 犬の遊離筋肉移植実験を開始	伊藤鑑夫(京大整形) 神経の funicular suture / epineuro-perineural suture	Jacobson JH University of Vermont College of Medicine, USA "Microsurgery in Anastomosis of Small Vessels" in Surgical Forum	
1962	大森清一 米国形成外科学会のH.J. Bunckeの講演等からマイクロサージャリーの必要性を痛感			1960年代に中山恒明や井口潔氏ら消化器外科医が開発した血管吻合器により遊離空腸移植	Malt RA Massachusetts General Hospital (surgery), USA 右上腕切断再接着を報告	
1963				豊島泰(大市大整形) 世界で3例目の切断手再接着 (国内初) (大市大第2外科) 井口外科で習得	Goldwyn RM Boston, USA 動物実験 (イヌの下腹壁皮弁) に着手	
1965	大森清一		恩地 裕 Jacobsonの血管吻合を見学	谷 太三郎 (川崎形成) Krizek Tの実験に参加	Jacobson JH Mount Sinai Hospital (NY) のchief of vascular surgeryに異動	
1966			小松重雄, 玉井 進 奈良県立医科大学 世界初の母指完全切断再接着術の成功	津下健哉 (広島大学) 血管吻合実験研究に着手	Zhong-Wei Chen China 右前腕切断再接着を報告	
1967				生田義和	Bakamjian VY Buffalo, New York 初のaxial pattern flap (deltopectoral(DP) flap) の開発	
1968				山田行男(名大) リンパ浮腫に於けるリンパ管静脈吻合に関する研究, 臨床例 (世界初) を報告	Krizek T USA 初の遊離皮弁移植成功 (イヌの下腹壁皮弁)	
1970	波利井清紀	藤野豊美 イヌの乳房移植			H. J.Buncke San Francisco, USA 動物実験 (ラット下腹部皮弁移植, ウサギ切断外耳再接着, 猿で足趾移植実験)	
1972					H. J.Buncke, J.R.cobbett, J.W.Smith, S Tamai New York, USA 世界で最初のMicrosurgery panel: C.C.Snyder(司会), Annual Meeting of the American Society of Plastic and Reconstructive Surgeons	*この際にEthion Co.から配布された世界初の再接着に関する小冊子の影響が大きい
1973	波利井清紀	世界で2例の顔面神経麻痺に対する遊離筋移植を報告		上羽康夫, 藤川重尚 (京都大学) 世界初の前腕への血管柄付き腓骨移植 (1973年施行, 1983年国内発表)	John Robey Cobbett London, England 世界初の母趾移植を報告	
1974	波利井清紀	世界初の遊離皮弁移植術成功例 (瘢痕性禿髪に対する頭皮皮弁) 4例をPRSに発表, 実施は1972年			International Microsurgical Society(IMS)設立 1970.9 Rijswijk(オランダ)にてFirst International Microvascular Transplantation Workshopとして開催 (会長: Van Bekkum)	
	波利井清紀	Free delto-pectoral flap (D-P flap) の移植を報告			McGregor IAら England axial pattern flap の概念の確立	
		原科孝雄 H. J. Bunckeに留学			International Society of Reconstructive Microsurgery(ISRM)設立 1972.10. ウィーンにてFirst International Society of Reconstructive Microsurgery(ISRM) 開催 (会長: Hanno Millesi) 参加者: Jacobson JH, Acland, Brunelli, Cobbett JR, Kleinert, O'Brien, 玉井 進 ら約 20人	
1976	藤野豊美 慶應大学形成外科	遊離大臀筋皮弁を報告			Daniel RK, Taylor GI Melbourne, Australia 世界で2例目の遊離皮弁 (free groin flap) 移植成功	
	玉井進 奈良医大整形外科	世界初の陰茎切断再接着を実施				
	草野恒輔, 勝見政寛, 吉津孝衛 新潟大学整形外科	世界初のfinger to finger transferを報告(麻痺側の左環指を欠損した右示指へ移植)				
1977	渡辺政則, 吉津孝衛 新潟大学整形外科	第2足趾MP関節の手への移植を報告			O'Brien BM Melbourne, Australia Microlymphaticovenous anastomoses for obstructive lymphedema (上肢50例と下肢6例とまとめた臨床例の結果を報告)	
1978	波利井清紀 東京警察病院形成外科	遊離薄筋皮弁を報告			Taylor I 血管柄付き腸骨移植を報告	
1980	吉津孝衛 新潟大学整形外科	世界ではじめて遊離血管柄付き腓骨移植による脊柱再建を報告			Y Guofan, C Baoqui Shenyang, China 遊離前腕皮弁を初めて報告	
1981	中山凱夫 筑波大学形成外科	実験的に静脈皮弁を報告			Morrison W Melbourne, Australia Great toe wrap-around flap を報告	
1982	室田景久, 富田泰次 東京慈恵会医大整形外科	遊離血管柄付き腸骨移植による大腿骨頭壊死症の治療			Teot L Montpellier, France 血管柄付き肩甲骨移植を報告	
1983	土井一輝 山口大学整形外科	全型腕神経叢麻痺に対する double muscle transfer を報告			Tamai S Nara, Japan ASSH-LasVegasのFounder's LecturにてReplantationの講演, 米国に再接着手技が拡大その際ASSHのHonorary Memberに津下先生の次に日本人 2 番目で就任, 後に田島達也先生が就任	
	藤巻有久, 山内裕雄 順天堂大学整形外科	血管柄付き腓骨移植を大腿骨頭壊死症の治療に応用して報告			McCraw JB Norfolk, Virginia, USA 米国形成外科学医により急速に開発された筋皮弁の登場	
	赤坂嘉久, 原 徹也 東京大学 (都立広尾) 整形外科	腕神経叢麻痺の肘屈曲再建に 大腿直筋を移植して報告			Song R Beijing, China 遊離前腕皮弁31例を報告	
1984	新富芳尚 北海道大学	Muscle vascularized pedicle flap の報告			Song YG, Chen GZ Beijing, China 前外側大腿皮弁の報告	
	吉村光生 吉村整形形成外科	腓骨皮弁の開発, 手指の皮膚欠損に対する静脈 皮弁移植を報告				
1985	山野慶樹 川崎医大整形外科	指尖部再接着 に対するUltramicrosurgeryを報告				
1985	藤 哲 弘前大学整形外科	血管柄付き腓骨を, 血行を温存した ままで二つ折りにして移植する手術を考案して報告				
1988	山野慶樹 川崎医科大学整形外科	下顎再建に血管柄付き腓骨移植を世界で初めて応用した				
1988	土井一輝 山口大学整形外科	先天性脛骨偽関節に対する血管柄付き同種腓骨移植 (母親から子供へ) を実施, 1996年Lancetに掲載				
1988	関利明, 柴田 実 新潟大学整形外科	足母趾の 血管柄付き MTP 関節を用いた肘関節粉碎骨折の再建を報告				
1988	酒井和裕, 土井 一輝 山口大学整形外科	大腿骨内側頭からの血管柄付き骨移植を報告				
		1988.4.16-18 Mt Fuji Symposium, 9th ISRM 会長: Chen Zhong-Wei Symposium Chair: 波利井 清紀 Program Committee: 生田 義和, 山内 裕雄				
1989	光嶋 勲 筑波大学形成外科	DIEP flapを報告				
1992	藤澤幸三, 平田 仁 三重大学整形外科	血管柄付き肩甲骨を下腿開 放性骨折の治療に初めて応用して報告				
1994		1994.10.2-7, 12th ISRM, Nara 会長: 玉井 進				
1997	金谷文則 琉球大学整形外科	先天性腕尺骨癒合症に血管柄付き遊離筋・脂肪弁移植を応用して報告			Isao Koshima Gent, Belgium 第1回国際穿通枝皮弁講習会開催 (International Course of Perforator Flap)	
1998					Jean-Michell Dubernard France 世界初の手同種移植 (失敗)	
1999					Warren C. Breidenbachら Tucson, Arizona, USA 世界初の手同種移植成功	
2000	光嶋 勲 岡山大学形成外科	スーパーマイクロサージャリー用いた LVA の報告				
2001						
2003	黒島永嗣 帝京大学整形外科	「次世代微小外科 neo-microsurgery」 「half- millimeter microsurgery」 を報告				
2009		2009.6.24-27, 5th WSRM, 宜野湾 (沖縄) 会長: 光嶋 勲, 土井一輝				
						2001 第1回WSRM 開催 (台湾) 会長: Fu Chan Wei